望ましい集団行動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる教育活動の在り方

日立市立中里小中学校

1　はじめに

本校は、１～９年生が密に交流しながら、学校生活を送っている。昨年度から引き続き、義務教育学校である強みを生かした諸活動を通して、児童・生徒の望ましい集団行動の活性化と自主的・実践的な態度を育てる特別活動の実践に努めた。

2　資料（実践事例、写真等）

(1) さわやかマナーアップあいさつ運動

本校の児童生徒は、日立市内の様々な場所から通学してくる。全学年が活動に参加し、あいさつ運動を行った。バス通学の児童生徒は、日立駅と市役所前で市民に対してあいさつをすることで、充実感を味わっていた。また、徒歩通学の児童生徒は中里小中学校昇降口周辺で、スクールバスで登校してきた友達に対して元気なあいさつを行った。

(2) なかよしタイム（異学年交流）

ロングの昼休み時間に全学年で楽しめる活動(遊び)を行った。縦割班を編成し、チーム名や活動内容を９年生が中心となって決め、進行することができた。また、高学年の児童が低学年の児童の面倒を見る等の積極的な異学年交流をする様子が見られた。

(3) 澄水の集い

コロナ渦で中止になっていた地域合同行事を今年度は実施することができた。地域の方の協力のもと、中里の豊かな環境を生かして、けんちんうどんを作った。うどんを作るグループとけんちん汁を作るグループに別れ、地域の方のアドバイスを受けながら協働して活動した。

3　成果と課題（○成果、●課題）

○さわやかマナーアップあいさつ運動を行うにあたり、各学年で達成目標を決め活動を行った。継続した活動により、児童生徒からの元気なあいさつが増えた。

○どの活動においても、生徒が主体となることができ、自己肯定感の高まりが感じられた。

○なかよしタイムなど９年生が中心になって活動することはもちろん、高学年の児童がリーダーシップを取って活躍する場も多かった。

●昨年度の生徒総会で実現したなかよしタイムだったが、今年度はそのまま引き継ぐ形となった。次年度は、たくさんある特別活動を児童生徒自身で見直し・改善できるような場を設けたい。